



ホモ・サピエンスと旧人3

——ヒトと文化の交替劇

西秋良宏 編

はじめに

西秋 良宏

本書は旧人・新人交替劇のプロセスについて考古学的観点から考察するものです。20 万年以上も前からユーラシア大陸には旧人、すなわちネアンデルタール人やデニソワ人などが広範に展開していました。ところが、アフリカ大陸で進化して、西アジア経由で各地に拡散を開始した新人ホモ・サピエンス、すなわち解剖学的現生人類に5 万年前以降（あるいはそれより前）、急速に取って代わられてしまいます。この間、両集団は接触、交雑（混血）したことがわかっていますが、最終的に生き残ったのは我々、新人ホモ・サピエンスのみです。この経緯を「交替劇」と名付け、その原因を学際的な手法で研究することを目的としたプロジェクトが2010 年以來、続けられてきました¹⁾。

この研究プロジェクトは多くの成果をあげてきましたが、そのうち考古学分野の取り組みの一部を紹介するものとして「ホモ・サピエンスと旧人」という出版シリーズを2013 年にたちあげました。本書が、その第3 巻となります。

三巻とも、それぞれに副題を添えて、中身を明示しています。第1 巻「旧石器考古学からみた交替劇」(2013)²⁾では、旧人・新人が残した旧石器時代石器群の編年を汎ユーラシア的に総覧し、そこから両集団の交替のありさまをどの程度描きうるのかを整理しました。第2 巻の副題は「考古学からみた学習」(2014)³⁾でした。ここで「学習」という言葉が出てきたのは、私たちのプロジェクトが学習をキーワードにして交替劇を説明しようとしているからです。そのロジックは、次のようなものです。旧人にしても新人にしてもその行動は文化に依存していたのであろう。交替劇が起こった原因の少なくとも一部は文化の格差に由来していたと考えられる。文化とは学習によって後天的に形成される行動のことである。ではどんな学習の違いがどんな文化の違いにつながったのか、なぜ、そのような違いが形成されたのか、考古学的に証拠はあるのか……。そんな観点から学習に関わる考古学的論点のサーベイをおこないました。

どちらの巻でも焦点をあてたのは考古学的証拠です。多くの場合、それは石器にかかわる物的証拠です。しかし、お気づきの通り、私たちが論じたいのはヒトです。石器ではありません。はたして文化の産物である石器が示す特徴は、その製作者であったヒトの生物学的帰属を語っているのでしょうか。第1 巻のあとがきでもふれたように、石器でヒトが語れないわけがないと私は考えています。問題は、石器でヒトが語れるかではなく、石器でヒトをどのように語るかでしょう。それには石器が語る文化と、その担い手であったヒトとの関係、さらには、それらの変化・交替はどのように相関していたのかについて考察する必要があります。

そこで、本書では副題を「ヒトと文化の交替劇」とし、ヒトの交替と文化の交替の関係について考古学の観点から整理してみることにしました。そんなに簡単な問いではありません。ヒト集

団が変わらなくても文化が変わる例のあることは、私たち自身の時代にあっても日常茶飯事でしょう。逆に、ヒトが交替したのに文化は継続した事例も過去にあったかも知れません。さまざまな観点からヒトと文化の交替メカニズムについて考察することが必要です。

第Ⅰ部ではヒトが交替したことが状況証拠から強く示唆されている地域、つまり旧人新人交替劇の主たる舞台となったユーラシア大陸西部で、石器群がどのように変わったのか、つまり文化の交替劇を眺めます。第Ⅱ部ではヒトが交替していない、あるいはわずかしこか交替していないことがわかっている地域での文化変化を点検します。データの解像度が高い新人遺跡についての論考が中心となっています。そして、第Ⅲ部では、ヒトや文化が交替する、あるいは変化する背景やメカニズムについての論考を集めました。

第2巻と同じく、ここでも平成24年度から26年度にかけて開催された多くのシンポジウム、研究会の成果をとりあげ、関係する論考を選択して編集しました。講演者の多くは「交替劇」プロジェクト考古班の関係者ですが、小林謙一、前田修両氏の寄稿は招待講演によるものです。また、小林豊氏には理論生物学から新鮮なコントリビューションをいただきました。これら三氏には特に記して御礼申し上げます。シンポジウムや研究会の会場での意見交換が各章に反映されています。積極的にコメントをお寄せいただいた多くの参加者の方々にも厚く御礼申し上げます。次第です。

1) <http://www.koutaigeki.org/>

2) 西秋良宏編 (2013) ホモ・サピエンスと旧人—旧石器考古学からみた交替劇。六一書房、東京。

3) 西秋良宏編 (2014) ホモ・サピエンスと旧人2—考古学からみた学習。六一書房、東京。

目次

はじめに	西秋良宏	i
例言		
I ヒトの交替劇 —考古学的証拠—		
ホモ・サピエンスの地理分布拡大に伴う考古文化の出現パターン		
—北アフリカ・西アジア・ヨーロッパの事例—	門脇誠二	3
ヨーロッパにおける旧人・新人の交替劇プロセス	佐野勝宏・大森貴之	20
南アジア・アラビアの後期旧石器化と新人拡散	野口 淳	36
新人拡散期の石器伝統の変化—ユーラシア東部—	長沼正樹	49
II 文化の交替劇 —新人遺跡が語るモデル—		
新大陸への新人の拡散—新人の拡散過程に関する比較考古学的アプローチ—	高倉 純	65
日本列島旧石器時代の文化進化	仲田大人	81
縄紋土器にみる新人の文化進化	小林謙一	94
縄文から弥生への文化変化	松本直子	110
III 交替劇の背景		
複合的狩猟技術の出現—新人のイノベーション—	佐野勝宏	127
新人・旧人の認知能力をさぐる考古学	松本直子	140
西アジアにおける新石器化をどう捉えるか	前田 修	151
中期旧石器時代から後期旧石器時代への文化の移行パターンを左右する 人口学的要因について	小林 豊	165
ヒトと文化の交替劇。その多様性—あとがきにかえて—	西秋良宏	176
編者略歴、執筆者一覧		